

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習講義
科 目 名	言語発達障害概論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時間	後期 水曜日5限土曜日2・3限	教室名	ことばの相談室実習室
担 当 教 員	松尾 泰子 高松 光雪				
実務経験とその関連資格	(松尾泰子) 言語聴覚士として小児通園施設での勤務経験あり。発達障害児の言語訓練に従事していた。 日本言語聴覚士協会 会員 日本発達障害学会 会員 (高松光雪) 言語聴覚士として神戸市立心身障害福祉センターにおいて自閉スペクトラム症児、知的障害児、限局性学習症の言語指導・コミュニケーション指導に5年間従事、同時に西宮YMCAのLDクラスを担当し、LD児の学習指導に2年間従事。 2000～言語聴覚士養成校にて教員を20年間(内2005年～2019年 大阪医療福祉専門学校 言語聴覚士学科 学科長)現在、川西市の児童発達支援センターにて保護者支援とSTへの助言、猪名川町保健センターにて「ことばの教室」での発達相談の講師として従事。				
《授業科目における学習内容》					
学生3～4人に症例1例を担当し、それぞれが役回り(記録、実施、保護者対応)を持ち、計画的に実行する。言語聴覚士を目指す学生として、コミュニケーションに困難さを持つお子さんの言語発達に関連する特徴を学びながら全体像を把握し科学的に検証ができるように、記録を必須とする。					
《成績評価の方法と基準》					
実技試験30% 臨床実習評価表(実習手引き参照)の15項目にて評価 レポート70% 見学記録、訓練計画書、症例報告会用レジュメ(グループで1つ)、保護者訓練結果報告書(各自1部作成)					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
参考図書: 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第3版(医学書院) レポートの提出等はmoodleを使用					
《授業外における学習方法》					
不明な点は都度、教員に報告、連絡、相談、確認を徹底して下さい。					
《履修に当たっての留意点》					
言語聴覚士として、患者に対する傾聴態度と謙虚且つ真摯な姿勢を学ぶと共に、訓練結果を出せるような責任感と柔軟な思考で取り組むことを願います。 社会人の基礎となる、報告、連絡、相談、確認も意識しながらアクティブラーニングを実践していきましょう。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	担当症例について、基本的情報収集ができる。患者や家族の守秘義務が遵守できる。		レジュメ	グループでの情報共有と実習の進め方を決める。
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション			
第2回	授業を通じての到達目標	実習記録が書ける。ことばの相談室の役割を知る。		レジュメ	グループでの情報共有と実習の進め方を決める。
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション			
第3回	授業を通じての到達目標	言語聴覚療法検査・評価を実践できる。訓練計画を立案できる。基本的な言語聴覚療法が実施できる。		実習に必要と思われる物を各自用意	(予習)指導目標(訓練計画表)作成 教材準備
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習①			
第4回	授業を通じての到達目標	実習指導者の助言のもと、レポート作成ができる。実習を通じて、今後の自己の課題を検討する。		デイリー	(復習)実習記録をグループで1部作成し、フィードバックまでに提出する。
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習フィードバック			
第5回	授業を通じての到達目標	言語聴覚療法検査・評価を実践できる。訓練計画を立案できる。基本的な言語聴覚療法が実施できる。		実習に必要と思われる物を各自用意	(予習)指導目標(訓練計画表)作成 教材準備
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習②			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	実習指導者の助言のもと、レポート作成ができる。実習を通じて、今後の自己の課題を検討する。	デイリー	(復習)実習記録をグループで1部作成し、フィードバックまでに提出する。
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習フィードバック		
第7回	授業を通じての到達目標	言語聴覚療法検査・評価を実践できる。訓練計画を立案できる。基本的な言語聴覚療法が実施できる。	実習に必要と思われる物を各自用意	(予習)指導目標(訓練計画表)作成 教材準備
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習③		
第8回	授業を通じての到達目標	実習指導者の助言のもと、レポート作成ができる。実習を通じて、今後の自己の課題を検討する。	デイリー	(復習)実習記録をグループで1部作成し、フィードバックまでに提出する。
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習フィードバック		
第9回	授業を通じての到達目標	言語聴覚療法検査・評価を実践できる。訓練計画を立案できる。基本的な言語聴覚療法が実施できる。	実習に必要と思われる物を各自用意	(予習)指導目標(訓練計画表)作成 教材準備
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習④		
第10回	授業を通じての到達目標	実習指導者の助言のもと、レポート作成ができる。実習を通じて、今後の自己の課題を検討する。	デイリー	(復習)実習記録をグループで1部作成し、フィードバックまでに提出する。
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習フィードバック		
第11回	授業を通じての到達目標	言語聴覚療法検査・評価を実践できる。訓練計画を立案できる。基本的な言語聴覚療法が実施できる。	実習に必要と思われる物を各自用意	(予習)指導目標(訓練計画表)作成 教材準備
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習		
第12回	授業を通じての到達目標	実習指導者の助言のもと、レポート作成ができる。実習を通じて、今後の自己の課題を検討する。	デイリー	(復習)実習記録をグループで1部作成し、フィードバックまでに提出する。
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習フィードバック		
第13回	授業を通じての到達目標	症例報告会用レジюмеが作成出来る。	レジюме(資料) 各自パソコン デイリー	(復習)授業内に作成出来なかった場合、放課後、学校にて作成。
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室症例報告会の準備		
第14回	授業を通じての到達目標	ケースカンファレンスで報告する事項を整理し、エビデンスを示しながら報告できる	レジюме	(予習)症例報告用レジюме作成
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習症例報告会		
第15回	授業を通じての到達目標	ケースカンファレンスで報告する事項を整理し、エビデンスを示しながら報告できる	レジюме	(予習)症例報告用レジюме作成
	各コマにおける授業予定	ことばの相談室実習症例報告会		